



# 日本ワクチン学会 ニューズレター

vol.12

---

## 目 次

- 1.第10回日本ワクチン学会学術集会を終えて  
第10回学術集会会長 山西 弘一 .....2
- 2.ワクチン関連トピックス
  - 1) トピックス I 『プレパンデミックワクチンの開発』 .....2
  - 2) トピックス II 『2006/07シーズンのインフルエンザワクチン』 .....3
  - 3) トピックス III 『国内で36年ぶり輸入感染症としての狂犬病発生』 .....3
- 3.第11回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ (第2報)  
第11回学術集会会長 倉田 毅 .....4
- 4.第2回 (2007年) 日本ワクチン学会高橋賞募集のご案内 .....4
- 5.会員会告
  - 1) 第1回Vaccine誌編集委員会議事録 (2006年7月15日) .....5
  - 2) 2006年度第2回理事会議事録 (2006年10月20日) .....7
  - 3) 第2回Vaccine誌編集委員会議事録 (2006年10月20日) .....10
  - 4) 第10回日本ワクチン学会総会議事録 (2006年10月21日) .....11

## § 第10回日本ワクチン学会学術集会を終えて

第10回日本ワクチン学会会長  
独立行政法人 医薬基盤研究所理事長 山西 弘一

第10回日本ワクチン学会を本年10月21日-22日、大阪のANAゲートタワーホテル大阪で行った。場所は関西空港の隣で、遠方よりの参加者には便利な場所であり、約540名もの参加者が集った。本年は第一回高橋賞の受賞もあり、盛りだくさんのプログラムであったが、最後まで多くの参加者があり会は成功裏に終了した。

一般演題の数も51題と多くの演題の応募があった。まず高橋賞は神谷齊先生（国立病院機構三重病院）と浅野喜造先生（藤田保健衛生大学）の両名で共に水痘の研究に携わり、多くの業績を上げた先生であった。ランチョンセミナーはDenis先生、Oxman先生の外国よりの演者であった。さらに特別講演は砂川富正先生、喜田宏先生にしていただき、感染症における世界の情勢が聞けた。又シンポジウムは「新たなワクチン開発」というタイトルで木戸博先生、高橋秀実先生、森康子先生、浜田茂幸先生方に近い将来に実用化されるであろうワクチンの研究について述べていただいた。最後に本年の目玉は二つのパネルディスカッションであり、パネ

ルIは「ワクチン研究開発・評価・審査の諸問題について」で、まず植村展生先生（厚生労働省）の「今後のワクチン開発・供給体制について」で始まり、田中克平先生（医薬品医療機器機構）、佐々木次雄（感染症研究所）の審査をする立場や上田重晴先生（阪大微生物病研究会）の承認申請を行う立場より、多くのご意見をいただいた。パネルIIは2日目の最後で行われ、昨年が続いてのテーマである「予防接種の混乱に 대응する（答える）」である。演者は庵原俊昭先生（三重病院）、横田俊平先生（横浜市立大学）、永井宗雄先生（永井小児科）、三宅智先生（厚生労働省）で4氏の講演の後、会場より多くの質問があった。特に最後のセッションは最後まで多くの方が参加し有意義なものであった。

このたびは会長をさせていただいたが、毎年多くの参加者があり、ワクチン学会への期待が大きいことがひしひしと感じられる会であった。参加者をはじめ多くの企業よりのサポートに感謝の念を表したい。

---

## § ワクチン関連トピックス

### トピックス I

#### プレパンデミックワクチンの開発

国内では、新型インフルエンザ対策としてプレパンデミックワクチン（A/H5N1亜型）の開発が進んでいる。現在、国内4社で製造が行われ、第I相臨床試験が終了し、現在第II / III相臨床試験が1,000人以上の規模で進行中である。接種方法は3週間の間隔で皮下あるいは筋肉内に2回接種する。第I相臨床試験では、皮下あるいは筋肉内ともに、5 $\mu$ gHA/回の2回接種により、70%以上の被接種者が中和抗体で4倍以上の抗体上昇を認めた。報告された副反応は、ほとんどが注射部位の局所反応であり、全身症状としては、頭痛、悪寒、倦怠感、発熱が見られている。

現在製造中のワクチンは、2004年にベトナムで分離されたClade1に分類されるA/Vietnam/1194/04株

を弱毒化したNIBRG-14株を用いた全粒子型のワクチンで、免疫原性を高めるためにアルミニウムアジュバントが添加されている。一方、最近の鳥インフルエンザの発生状況から、Clade 2に分類されているウイルス株を用いたワクチンの製造も検討されている。現在Clade 2に分類されるワクチン株として候補に挙がっているのは、rgA/Indonesia/5/2005（インドネシアで分離されたA/Indonesia/5/05(H5N1)をリバーシジェネティクス法で弱毒化した株）と、NIBRG-23株（トルコで分離されたA/turkey/Turkey/1/05をリバーシジェネティクス法で弱毒化した株）である。

## トピックスⅡ

### 2006/07シーズンのインフルエンザワクチン

今シーズンのインフルエンザワクチンは、  
A/ニューカレドニア/20/99 (H1N1)、A/  
広島/52/2005 (H3N2)、B/マレーシア/

2506/2004 の3株が用いられている。

なお、過去5シーズンのインフルエンザワクチンは、以下の表に示すとおりである。

シーズン	当該シーズンのワクチン株	当該シーズンに流行した型（亜型）
2000/2001	A/ニューカレドニア/20/99(H1N1) A/パナマ/2007/99(H3N2) B/山梨/166/98	A(H1N1) A(H3N2) B
2001/2002	A/ニューカレドニア/20/99(H1N1) A/パナマ/2007/99(H3N2) B/ヨハネスバーグ/5/99	A(H1N1) A(H3N2) B
2002/2003	A/ニューカレドニア/20/99(H1N1) A/パナマ/2007/99(H3N2) B/山東/7/97	A(H3N2) B
2003/2004	A/ニューカレドニア/20/99(H1N1) A/パナマ/2007/99(H3N2) B/山東/7/97	A(H3N2)
2004/2005	A/ニューカレドニア/20/99(H1N1) A/ワイオミング/3/2003(H3N2) B/上海/361/2002	A(H3N2) B
2005/2006	A/ニューカレドニア/20/99 (H1N1) A/ニューヨーク/55/2004 (H3N2) B/上海/361/2002	A(H1N1) A(H3N2) B

## トピックスⅢ

### 国内で36年ぶり輸入感染症としての狂犬病発生

2006年11月16日および22日、厚生労働省は、フィリピンから帰国した60代の男性2名が、いずれも2006年11月に国内で狂犬病を発症したと発表した。

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/11/h1116-2.html>

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/11/h1117-4.html>

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/11/h1122-1.html>

2名とも8月にフィリピンを渡航中に犬にかまれたエピソードがあり、いずれも現地で曝露後のワクチン接種を受けていなかった。

このことを踏まえて、厚生労働省は、検疫所、自治体及び日本医師会に対し、狂犬病の流行地域に渡航する者に対する感染防止のための注意喚起ならびに流行地域で動物に咬まれた者への曝露後ワクチン接種等の対応について、周知徹底を通知した。

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/11/h1116-2.html#besshi>

WHOの報告によると、2004年現在の世界における年間死亡者数は55,000人、曝露後ワクチン接種者数は1,000万人と推計されている。厚生労働省の報告によると、わが国における狂犬病の発生状況は1970年に狂犬病流行地渡航中に犬に咬まれ帰国後発病・死亡した輸入症例が1名報告されているが、国内発生は1953年3名、1954年の1名を最後に報告されていない。また、犬における発生も1953年176頭、1954年98頭、1955年23頭、1956年6頭を最後に1957年以降発生報告はない。

狂犬病発病後は有効な治療法がなく、致死率はほぼ100%とされているため、ワクチン接種による発症予防は極めて重要である。接種のスケジュールは、狂犬病流行地渡航前の曝露前免疫としては、1mL/回を4週間隔で2回皮下接種し、その6-12か月後に追加接種する。通常、3回の基礎免疫により1年から1年半の予防効果が期待で

きるが、長期に予防する場合は、1-2年に1回の追加接種が望まれる。渡航までに時間的な余裕がない場合でも、少なくとも渡航前に2回の接種はすませたい。WHO方式として、0, 7, 28日の3回、1mL/回を接種する方法もある。一方、狂

犬病あるいはその疑いのある動物に咬まれたり、唾液に接触したりした場合は、0, 3, 7, 14, 30, 90日の6回、1mL/回を接種する。ヒト（またはウマ）抗狂犬病免疫グロブリンを接種する予防方法もあるが、国内での入手は困難である。

---

## § 第11回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第2報）

第11回日本ワクチン学会学術集会を、平成19年12月8日（土）、9日（日）の2日間、パシフィコ横浜にて開催することとなりました。シンポジウム、特別講演等を企画していますが、一般演題が充実していないと魅力あるワクチン学会にはならないと考えております。是非、多くの方々のご参加と、演題発表をお願い申し上げます。

会 長：倉田 毅（国立感染症研究所（富山県衛生研究所））

会 期：2007年12月8日（土）－ 9日（日）

場 所：パシフィコ横浜

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

TEL：045-221-2155

事務局：〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1

国立感染症研究所感染病理部長 佐多徹太郎

TEL：03-5285-1111 FAX: 03-5285-1189

E-mail: tsata@nih.go.jp

---

## § 第2回（2007年）日本ワクチン学会高橋賞応募のご案内

第2回（2007年）日本ワクチン学会高橋賞の候補者を公募いたします。応募希望者は下記の要綱に従ってご応募下さい。

応 募 期 間：2006年11月1日（水）～2007年3月31日（土）（必着）

※必ず配達記録の残るものでご応募下さい。

応募書類送付先：〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル 3階

(株)春恒社学会事務部内 日本ワクチン学会係

TEL：03-5291-6231/FAX：03-5291-2176

### 1. 本賞の趣旨

日本ワクチン学会高橋賞は、高橋理明先生の開発された水痘ワクチンが、財団法人阪大微生物病研究会によりほぼ全世界で実用化された事を記念し創設された。創設にあたり、同財団より高橋記念基金が当学会に寄贈された。日本ワクチン学会高橋賞は、本学会の創立趣旨に沿って学問的・実学的に卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。

## 2. 対象者

- 1) 本賞は本学会の創立趣旨に沿ってワクチンに関する基礎研究、臨床応用、製造開発、疫学研究において卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。
- 2) 原則として本学会会員とし、年齢制限は設けない。

## 3. 応募方法

以下の書類を揃えて(株)春恒社学会事務部内 日本ワクチン学会係まで、2007年3月31日（土）（必着）にてお送り下さい。

- 1) 本会所定の申請書【原本とコピー7部を添付】
- 2) 研究業績の要約（2,000字以内）【原本とコピー7部を添付】
- 3) 研究業績リスト（別紙1枚以内）【原本とコピー7部を添付】
- 4) 関連研究業績別刷（5編以内）各8部
- 5) 自薦の場合には本人の研究についての抱負、他薦の場合は本学会会員の推薦状1通（双方ともにA4版1枚まで）【原本とコピー7部を添付】

※1)～5)までを1セットとし、計8部を送付すること。

※応募書類については、当学会ホームページ（<http://www.jsvac.jp/>）よりダウンロードして下さい。

## 4. 選考と発表

- 1) 選考は理事長に加えて理事会で承認された学会員以外を含めた合計7名で構成する選考委員会でを行い、委員会での決定事項は理事会での承認を必要とする。  
なお、受賞者が選考委員会で決着を見ない場合は理事全員の意見を求める。
- 2) 受賞は原則毎年2名とし、功労的なもの1名、基礎研究的なもの1名とする。
- 3) 日本ワクチン学会総会にて理事長より賞状及び副賞を授与する。
- 4) 総会において受賞者による記念講演を行うとともに当学会が指定する刊行物に総説を発表する。
- 5) 受賞者には2007年8月末までに通知いたします。

---

# § 第1回 日本ワクチン学会 Vaccine誌 編集委員会議事録

日 時：2006年7月15日（土）13：00～15：00

場 所：国立感染症研究所 共用第二会議室

出席者：【理事長】山西弘一

【委 員】浅野喜造，荒川宜親，奥野良信，熊谷卓司，中山哲夫

【アドバイザー】清野 宏，谷口清州，多屋馨子

【出版社】海老原 実 エルゼビア・ジャパン（株）

【事務局】石戸谷晃子，中川庸幸（(株)春恒社）

欠席者：【委 員】岡部信彦，田代真人

冒頭に山西弘一理事長から本年4月5日に開催されたVaccine誌あり方委員会議事録に沿って、委員会設立の経緯の説明がなされた。また、清野 宏先生から委員会の構成について補足説明がなされた。

## 1. 委員長の選出について

- 1) Vaccine誌への本会利用可能な50頁の使用目的、委員構成におけるアドバイザー制設置の観点から、委員相互協議の上、岡部信彦委員に委員長をお願いすることになった。

査読者の選択、依頼などについては、アドバイザーの清野先生、谷口先生、多屋先生がこれをサポートすることが確認された。

- 2) 委員の任期は、理事長任期と同様とし、2年間（再任可能）とすることが確認された。よって、今期のVaccine誌編集委員会の任期は、平成19年12月31日までとする。
- 3) 本日、岡部信彦委員が欠席のため、山西理事長が引き続き、委員会の議事進行を進めることとなった。後日、岡部信彦委員から委員長就任の快諾を得た。

## 2. 査読体制・システムの確立について

本会利用可能な50頁の掲載内容の大枠について、確認がなされた。（以下、2006年4月5日あり方委員会議事録抜粋）

『原著論文等の投稿論文的なものを掲載するのではなく、日本ワクチン学会からの国際情報発信の性質を確保しつつ、レビュータイプの原稿を基本として掲載していくことが確認された。具体的には以下の内容のものを掲載していくこととなった。

- (1) 日本ワクチン学会学術集会でいったシンポジウム等の企画のレビュー
- (2) 日本ワクチン学会高橋賞受賞者による 受賞内容の総説
- (3) 厚生労働省・国立感染症研究所がWeb発信している疫学情報
- (4) 日本ワクチン学会学術集会の案内や学会からのインフォメーション
- (5) 本会会員からのレビュー』

上記の大枠を基に査読体制・システムの確立について協議を行い、以下を決定した。

- 1) 投稿システムについては、エルゼビアのVaccine誌オンライン投稿システムを利用する。
- 2) 投稿原稿は編集委員長が最初に受け取り、それを委員会で査読へ進めるかどうかを協議する。受理の場合には、査読へ回し、不可の場合には原稿を差し戻す。
- 3) 査読委員は、2名体制を原則とし、委員会メンバーが2名でも構わないが、委員会メンバー以外の方にもお願いする。
- 4) 投稿原稿は、原則、原著論文は扱わず、総説や研究報告を基本とし、このほか、学術集会の報告等を世界に発信する。

なお、今後の具体的な掲載内容は以下のとおりである。

- (1) 日本ワクチン学会の設立経緯・案内を掲載する。（大谷 明先生へ編集委員長から依頼）
- (2) 第11回日本ワクチン学会学術集会のアナウンスを掲載する。（原稿担当：倉田 毅次期会長）
- (3) 高橋賞受賞者へ受賞研究についての総説を岡部信彦編集委員長から依頼する。  
受賞者：神谷 齊先生『水痘ワクチンの臨床研究および本邦における各種予防接種の普及啓発活動』  
受賞者：浅野喜造先生『水痘・帯状疱疹ウイルス感染症制御に関する総合的研究』
- (4) 高橋賞受賞者の総説を掲載するに際し、高橋賞設立の経緯・説明を掲載する  
（原稿担当：清野 宏先生）
- (5) 第10回日本ワクチン学会学術集会のまとめ（Meeting Report）を掲載する。  
（原稿担当：山西弘一会長）
- (6) 国立感染症研究所のIASRをレビューとして掲載（原稿担当：谷口清州先生、多屋馨子先生）
- (7) 日本独自のワクチンに関するレビュー  
年次学術集會時のシンポジウムや特別企画など、座長の方から推薦していただき掲載する。
- (8) 日本ワクチン学会ニュースレターの英語版を掲載する。  
※英訳の経費については、別途調査し、予算に組み込むことを検討することが確認された。
- (9) 会員からの総説

- 5) Vaccine誌は年間50数冊発刊されることから、利用可能な50ページについては、1冊で全てを使用するのではなく、年間3冊ぐらいに分けて掲載利用することが確認された。
- 6) 以上のことから、年間スケジュールも作成し、何月分にはどのカテゴリーを掲載するといった予定も立てていくこととなった。
- 7) 委員会の開催について
  - (1) 年次学術集会の前日の理事会（前後：スケジュールによる）に開催する。
  - (2) 必要に応じ、3月・4月に開催される理事会前後に開催する。
  - (3) それ以外は、エルゼビアの投稿システムを利用しメールによる持ち回り委員会を開催する。

### 3. 奥野先生からの提案について

奥野良信委員（第9回学術集会会長）が窓口となり、第9回学術集会時のシンポジウムの内容をVaccine誌へ掲載するため、原稿を収集中であり、8月には、全ての原稿が揃う予定であるとの報告がなされた。これを受け、上記の手續きに基づき、岡部編集委員長へ提出していただき委員会で受理について協議することになった。

また、馬場先生からも医事新報社の原稿の英訳版が届いており、こちらもレビュー形式であることを前提に掲載予定にて進めることとなった。

### 4. 次回の委員会での検討事項について

次回の委員会は、第10回学術集会の前日に開催し、第9回学術集会シンポジウムの査読・掲載に関する確認を行うとともに、次の『日本独自のワクチンに関するレビュー』掲載について、各委員が掲載内容の候補を考え、持ち寄ることとなった。

以上

平成18年7月15日  
理事長 山西 弘一

---

## § 2006年第2回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：2006年10月20日（金）16：00～18：00

会 場：全日空ゲートタワーホテル大阪・国際会議場 53階「翼」

出席者：山西弘一（理事長）、浅野喜造、庵原俊昭、上田重晴、大隈邦夫、奥野良信、神谷 齊、  
喜田 宏、城野洋一郎、多屋馨子、高見沢昭久、中山哲夫、堀井俊宏 各理事  
倉田 毅（次期会長）、清野 宏 各監事  
森 康子（第10回学術集会事務局）、石戸谷晃子、中川庸幸（株春恒社）

欠席者：岡 徹也（次々期会長）、荒川宜親、加藤達夫、田代真人、谷口清州 各理事

記録者：北川理加（医薬基盤研）

### 報告事項

#### 1. 前回議事録の確認

山西弘一理事長から前回理事会議事録の報告があり、本理事会で承認された。

## 2. 一般経過報告

事務局から2006年9月30日現在の会員数の現況を含む一般経過報告がなされた。

## 3. 高橋賞選考委員会報告

山西理事長から、高橋賞選考に関して応募が2件あり、選考委員会での審議の結果、浅野喜造先生・神谷 齊先生のお二人に授与することを全会一致で決定されたとの報告がなされた。また、受賞者に渡される盾が披露された。総会終了後、高橋賞受賞式と受賞講演が行われるとの報告があった。

## 4. 平成18年度一般会計中間報告

高見沢財務担当理事から平成18年度一般会計および貸借対照表、財産目録の中間報告がなされ承された。

## 5. 平成18年度高橋記念基金会計中間報告

高見沢財務担当理事より、平成18年度高橋記念基金会計および貸借対照表、財産目録の中間報告がなされ承された。

## 6. 第10回日本ワクチン学会学術集会について

山西会長から第10回日本ワクチン学会学術集会に関する資料が配布され、会期中の企画・プログラムが紹介された。プログラムの送付遅延・誤植についても説明がなされた。

会期：平成18年10月21（土）－22日（日）

場所：全日空ゲートタワーホテル大阪・国際会議場

## 7. 第11回日本ワクチン学会学術集会について

倉田次期会長から第11回日本ワクチン学会学術集会は、平成19年12月8日（土）－9日（日）にパシフィコ横浜で開催予定であるとの報告がなされた。

## 8. 第12回日本ワクチン学会学術集会について

山西理事長から、第12回日本ワクチン学会学術集会会長として（財）化学及血清療法研究所の岡 徹也先生を理事会から第10回総会に諮ることの報告があり、再確認された。

会期：2008年10月25日（土）－26日（日）予定

## 9. Vaccine誌 編集委員会について

山西理事長から、第1回の編集委員会議事録の内容の確認がなされた。

清野監事から、現在（一週間程度）「Vaccine」のサイトにアクセスできない状況になっており、エルゼビア社が原因を調査中との説明があった。

## 10. 日本ワクチン学会ロゴマークの決定について

山西理事長から、会員へのアンケートの結果、3案のうち1つに決定したとの報告がなされ、承認された。

## 11. ニュースレター・ホームページについて

事務局から次回ニュースレターの目次（案）及びホームページの更新状況について報告がなされた。



## 審議事項

### 1. 学術集会補助金の増額について

山西理事長から、学術集会補助金を50万円から100万円に引き上げてはどうかという提案がなされ、19年度予算から増額することが承認された。

### 2. 平成19年度一般会計・高橋記念基金会計予算案について

高見沢財務担当理事から、日本ワクチン学会平成19年度一般会計予算案について説明がなされ、承認された。また、事務局から繰越金について補足説明がなされた。

### 3. 会費滞納者の退会処分について

3年以上会費滞納者（20名）の一覧が配布され、次回理事会での承認を経て、退会手続きを行うことが確認された。該当者にはできるだけ未納分の支払について督促することが確認された。

### 4. 高橋賞規定・内規の改定について

山西理事長から高橋賞規定・内規について説明・報告がなされた。

規定については、「委員長は理事長が務めるものとする」という文言を追記することが承認された。

内規の表彰欄では、受賞者の賞金金額を文面から削除することが提案され、承認された。

上田理事から、規定の1～2行目の文言を入れ替えることが提案され、承認された。

### 5. その他

山西理事長から、アステラス製薬より、第10回学術集会抄録の一部内容を医療機関へ配布する資料として使用したいとの要望があったとの報告があった。理事会で検討した結果、20日からの一般演題発表後に、著者の承諾を得て使用することを承認した。

以上

平成18年10月20日（金）

日本ワクチン学会

理事長 山西弘一

## § 第2回 日本ワクチン学会 Vaccine誌 編集委員会議事録

日 時：2006年10月20日（金）18時～19時

場 所：全日空ゲートタワーホテル大阪・国際会議場 53階 「翼」

出席者：【理事長】山西弘一

【委員長】岡部信彦

【委 員】浅野喜造，奥野良信，熊谷卓司，中山哲夫

【アドバイザー】清野 宏，多屋馨子

【事務局】石戸谷晃子，中川庸幸（(株)春恒社）

欠席者：【委 員】荒川宜親，田代真人

【アドバイザー】谷口清州

【出版社】海老原 実 エルゼビア・ジャパン（株）

冒頭に岡部信彦委員長から委員長として挨拶があった。

また、理事会での議論も反映していくため、山西理事長もオブザーバーとしてご出席していただくことを確認した。

### 1. 前回議事録の確認

岡部委員長から前回理事会議事録の報告がなされた。

議事録2. 3)『査読委員は、2名体制を原則とし、委員会メンバーが2名でも構わないが、委員会メンバー以外の方にもお願いする。』について、査読委員は岡部委員長がアドバイザー委員と協議し推薦者を決め、査読委員とすることが確認された。

### 2. Vaccine誌への掲載原稿依頼について

Vaccine誌への掲載原稿依頼先と依頼順を決定した。

### 3. その他

次回のVaccine誌編集委員会は、次回理事会開催にあわせて開催することが確認された。

以上

平成18年10月20日  
委員長 岡部 信彦

## § 第10回日本ワクチン学会総会議事録

日 時：平成18年10月21日（土）13：10－13：40  
会 場：全日空ゲートタワーホテル大阪・国際会議場R I C Cホール  
総会議長：副理事長 浅野喜造

冒頭に浅野議長より、報告事項の前に第10回会長から挨拶をしてもらう旨のアナウンスがあった。

### 1. 第10回学術集會会長挨拶

第10回日本ワクチン学会学術集會 山西弘一会長より挨拶があった。

### 2. 報告事項

#### 1) 一般経過報告

山西弘一理事長から、平成18年度活動状況・Vaccine誌オンライン購読開始等を含む一般経過報告があった。

#### 2) 日本ワクチン学会ロゴマークについて

山西理事長から、ロゴマーク決定について説明・報告がなされた。

#### 3) 日本ワクチン学会高橋賞受賞について

山西理事長から、高橋賞選考委員会で審議の結果、神谷 齊先生・浅野喜造先生のお2人に高橋賞が授与されることが決定し、この総会終了後、受賞式を執り行うことの報告があった。

### 3. 議 事

#### 1) 日本ワクチン学会高橋賞規定について

山西理事長から、高橋賞規定及び選考委員会内規の改定について報告があり、承認された。

#### 2) 平成17年度決算および平成17年度監査報告について

高見沢理事から平成17年度決算報告がなされ、引き続き倉田監事から平成17年度会計監査報告があり、平成17年度の決算案が承認された。

#### 3) 平成19年度予算案について

高見沢理事から平成19年度予算案について報告があり、その中で学術集會補助金を50万円から100万円へ増額することが諮られ、承認された。

#### 4) その他

特になし

### 4. 第12回学術集會会長の推挙

山西理事長から第12回学術集會会長として、(財)化学及血清療法研究所の岡 徹也先生が推挙され、承認された。

### 5. 次期会長挨拶

第11回日本ワクチン学会学術集會 倉田 毅次期会長より挨拶があった。

以上

---

日本ワクチン学会ニュースレター 第12号

2007年1月10日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局

〒567-0085 茨城市彩都あさぎ7-6-8 (独) 医薬基盤研究所

日本ワクチン学会理事長 山西 弘一

<http://www.jsvac.jp/>

<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519 洛陽ビル3階

(株) 春恒社 学会事務部内

日本ワクチン学会係

TEL : 03-5291-6231/FAX : 03-5291-2176/ E-mail : [jsvac@shunkosha.com](mailto:jsvac@shunkosha.com)

---